

職員による自己評価

A 環境面

活動スペースは充分とはいえないが、利用者の状況に応じてレイアウトの工夫をして、最大限の活動ができるよう確保している。

B 業務改善

記録の作成方法の見直しと改善により、指導員の業務効率が上がった。

C 児童への支援内容

利用児童の変化に合わせてプログラムを充実させリトミックやクッキングも定着した。
漢検・数検のサポートにより、多くの合格者を出すことができた。

D 保護者への説明責任・信頼関係

ホームページの更新頻度は多少増えたが、会報誌の発行回数が少なかった。

E 非常対応

防災マニュアルの見直しを行い、より現実的なイメージをもてるよう指導員にも徹底した。

保護者による評価

A 環境面

- ・スペースは充分でないが、それなりに工夫はされている
- ・バリアフリー化されていないが、安全は確保されている

B 適切な支援の提供

- ・活動プログラムは固定化されないよう工夫されている
- ・障害のない子どもとの活動機会はない
- ・放課後等デイサービス支援計画の作成には満足している

C 保護者への説明等

- ・保護者会は開催されていない
- ・子どもの状況についての保護者との共通理解や意思疎通はなされている
- ・支援の内容について丁寧な説明がされている

D 非常対応

- ・マニュアルの策定はされている
- ・避難訓練は実施されているかわからない

事業所内での分析

- ・環境面（設備）は充実していないと感じているが、その中で最大限の工夫はされていると認識している
- ・保護者面談などにて丁寧な説明ができており、意思疎通や情報伝達について保護者の満足を得ている
- ・スペースの狭い中でも工夫して、子ども達が身体を動かして遊ぶ機会を設けている
- ・防災訓練は定期的に行っているが、保護者にアナウンスしていないので特に認知されていない

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・モニタリング・面談に基づいた支援計画を保護者に理解してもらえており、満足度も高い
- ・イベントや外出は少ない分、プログラムを充実させ、児童ひとりひとりを手厚くサポートすることができる
- ・会報誌「しもながやだより」で活動内容や活動方針を保護者に理解してもらえる

事業所の改善点

- ・防災訓練や各種マニュアルの整備について周知されていない
- ・地域交流や保護者会を開催していないが、今後必要性を吟味して検討する
- ・職員の充実とスキルアップ

事業所の改善への取り組み

- ・常に整理整頓に尽力し、活動スペースを確保する。また、限られたスペースを活用できるように活動プログラムも工夫する。
- ・会報誌の定期的な発行とホームページ更新を継続する。これにより利用頻度の低い児童や関心の薄い保護者にも取組みを理解してもらえるよう情報発信する。
- ・今年度初めて漢字検定と数学検定のサポートにより良い結果が続いている。今後も他児童に広げて学習支援を充実させたい

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・送迎車とドライバーの不足により外出イベントはほとんどできていないが、室内プログラムを充実させて、定着させることができたのはよかった。
- ・アンケートの「子どもは通所を楽しみにしているか」と「事業所の支援に満足しているか」という項目が高評価であったことが励みとなるので、これを維持できるよう今後も努めたい。

事業所名 プレップサポートセンター下永谷

担当者 長尾 かおる